

広報 ふじ

〔毎月5日・25日発行〕

55.1.1

No. 287

発行・富士市役所

富士市永田61-1

電話<0545>51-0123

編集・

企画調整部広報広聴課

迎春

昭和55年元旦

飛躍'80 わたしの

明けて



小学6年のみなさん
(神戸小学校)

勉強も大事だけど、少しぐらい遊ばせてほしい。わたしたちの夢は、去年の夏休みに小遣いをためて日本各地の名所を旅行する計画をたてたが流れてしまった。ことしは実現したい。そしてこの4月から中学1年勉強もがんばりたい。



明けましておめでとうございます
今年も二十万市民と手をとりあつて
自主と連帯による活力ある産業文化
都市建設のため力いっぱい働きます
皆さんの一層のご支援とご協力をお願い
申し上げます

昭和五十五年 元旦
富市長 渡辺彦太郎



市立吉原商業
高校の生徒たち

生涯を通じて、学生生活がなんといっても一番思い出深いときではないでしょうか。この思い出のページをつづっていくためにも、ことしはくいのない高校生活をおくり、来年の進学に就職に備えて、みっちり勉強に打ち込んでみたい。

また、ことしの夢は、市長さんを囲んで私たち市立高校生代表と座談会が開かれたら、すばらしいと思います。



海野庄三さん(30歳)
広見新町

80年代は見直しの時であると思う。経済成長がストップしても、人それぞれが生活を見直し物質面の節約、精神の向上が図られるとしたら、それは成長といえると思います。

ひとりひとりの心がけしだいで、打開し、道は開けるのでは……。



ひとこと

おめでとうございます



仁藤 斉浩さん(26歳)
一の宮町

自分の生き方を模索するためにも
青年の一時期を青年団の一員として
青年活動に没頭しています。

80年代をになう青年としての使命
を自覚し、住みよい地域社会づくりに、
同じ青年団の仲間とがんばって
いきます。



八十年代の黎明を壽が
新春のご祝詞を申しあげます
私達議会はいつも富士市の発展
と市民の幸福を願って活動してい
ます。今年も皆様方のご理解ある
ご支援をお願い申しあげます。
昭和五十九年元旦
富士市議会議長 加藤 昌一



大井 正知さん(61歳)
中央町2丁目

昭和34年から市の統計調査員をし
て、ことしで丸20年。この統計資料
は私たちの生活に、たいへん役立っ
ています。

特にことしは、10年に1度の大規
模の国勢調査が行われます。この調
査を完ぺきに近いもので実施したい
ものです。



藤沢 貞代さん(40歳)
中野1丁目

私にとって、去年は内より外への
意識変革が、ボランティア活動でし
た。ことしは、子どもたちも成長し
お蔭様で主人も陰ながら協力してく
れますので、更に恵まれない人たち
の苦しみに、心からの愛の手をさし
のべてくださる大勢の人たちに出会
うことを望みながら懸命に奉仕活動
をつづけていきたい。



大西 敏夫さん(56歳)
宮島新田

めまぐるしい世界情勢の中で、こ
れからの日本は一体どうなるのか、
私は近く仲間と中国を訪問する計画
をたてていますが、80年代の暮らし
を守るため、国の政治も、地方自治
体の政治も、それぞれの立場で、首
長が政治にしっかり取組んで貰いた
いと思います。



市民参加による新総合計画
が決まる
新総合計画案を市長に
答申（二月二十四日）



まちづくり懇談会開かれる
（六月一日）



全国初の特殊歯科診療センターオープン
（4月2日）



天間小学校が開校 生徒数は717人（4月11日）



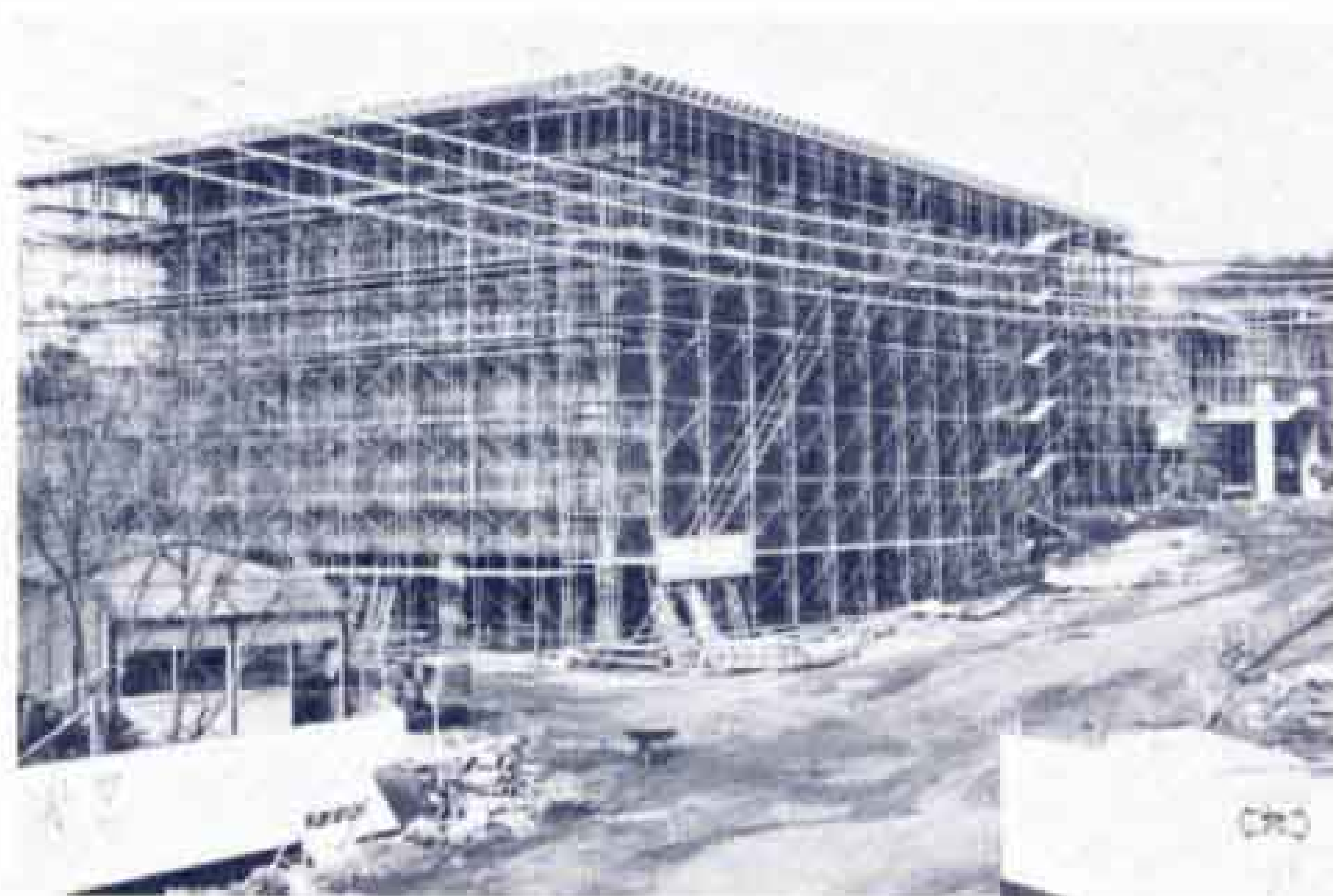
新旧交代新人16市議会議員が誕生（4月22日）

'79. 広報紙でみたこの1年

昭和54年は、生産と生活が調和する新しいまちづくりをめざして市政を積極的に進めてまいりました。
そこで、この一年の主なできごとを拾ってみました。



障害者福祉都市に指定を受ける（6月5日）



郷土博物館建設に着工
（オープンは56年4月）



富士高大健闘、甲子園へ初出場（8月14日）



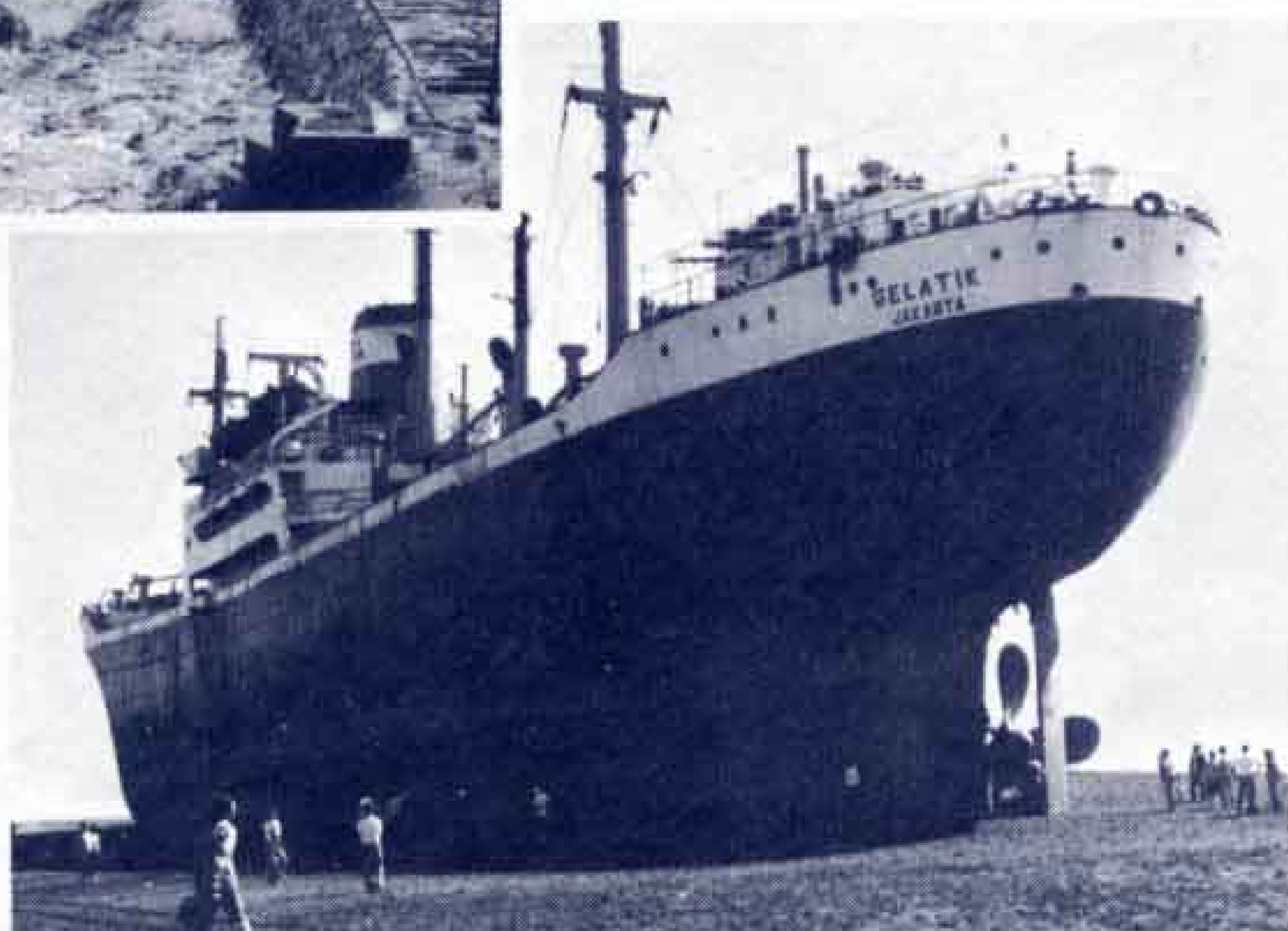
市民文化懇談会が発足
委員に二十六人きまる
(九月七日)



大規模地震対策強化地域
指定と自主防災組織の育
成強化すすむ
(八月七日)



台風20号、鷹岡地区で
大あばれ(10月19日)



柏原海岸へ外国大型貨物船
打ち上げられる



西部浄化センターが通水
待望の富士処理区公共下水道が稼動
(十月二十九日)

《1月》 新総合計画審議会々長から新総合計画案が市長に答申。

《2月》 自主防災組織づくり推進のため市職員による防災対策地区担当班が設置、333名に辞令交付。

《3月》 3月定例市議会で新総合計画基本構想など決まる。市公害対策審議会が4年ぶりに悪臭公害の現状調査など答申。市立製パン所閉鎖。

《4月》 全国初の特殊歯科診療センターオープン。天間小学校開校。市議会議員選挙、16新人議員誕生。

《5月》 中国視察団19名富士市を訪問、市長と固い握手。

《6月》 新総合計画を中心に、18地区ごとに新しいまちづくりこん談会が始まる。障害者福祉都市に指定を受ける。富士山クリーン作戦に市民約1万人参加。市内街路樹数県下でトップ。53年工業生産出荷額浜松市に遂にぬかれる。

《7月》 郷土博物館着工。商工会議所会館着工。

《8月》 大規模地震対策強化地域に指定。富士高、甲子園へ初出場。

《9月》 市防災訓練実施、市民約10万人参加。自主防災組織結成率80%。市民文化こん談会が発足。

《10月》 最後の田子の浦港へドロ処理が再開。台風20号、鷹岡地区であばれる、柏原海岸に外国大型貨物船が座礁。西部浄化センターが通水。富士処理区公共下水道が稼動。

《11月》 広見コミュニティーセンターが完成、自主運営有線放送開始。富士中央病院増改築基本構想案まとまる。

《12月》 富士木材センターオープン、初入札。

主
な
で
き
ごと

みつけたゾー わが街の日本一



市民のみなさん、ご存じですか。
「紙のまち」で知られている富士市
には、トイレットペーパーなど年間
生産量を誇る「日本一」と、富士川
に架けられている国道と国鉄の鉄橋
など、長さの「日本一」が12ありま
す。まだほかに、埋もれている日本
一がありましたら市広報広聴課
☎51-0123 内線529へお知らせくだ
さい。

岩本山

規模では
東洋では
なんたー

東名インター
チェンジ



東海道線



新幹線

富士川

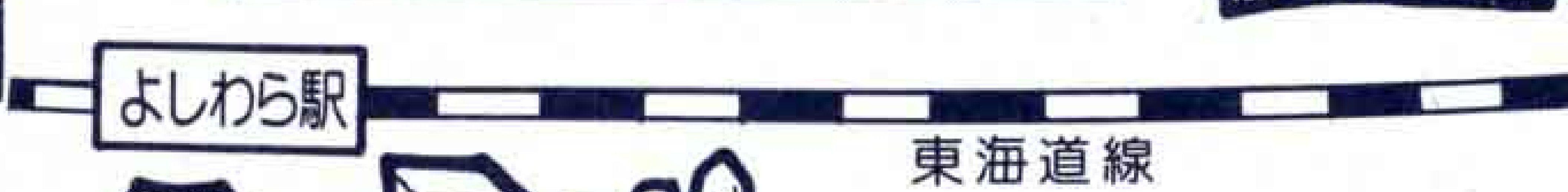
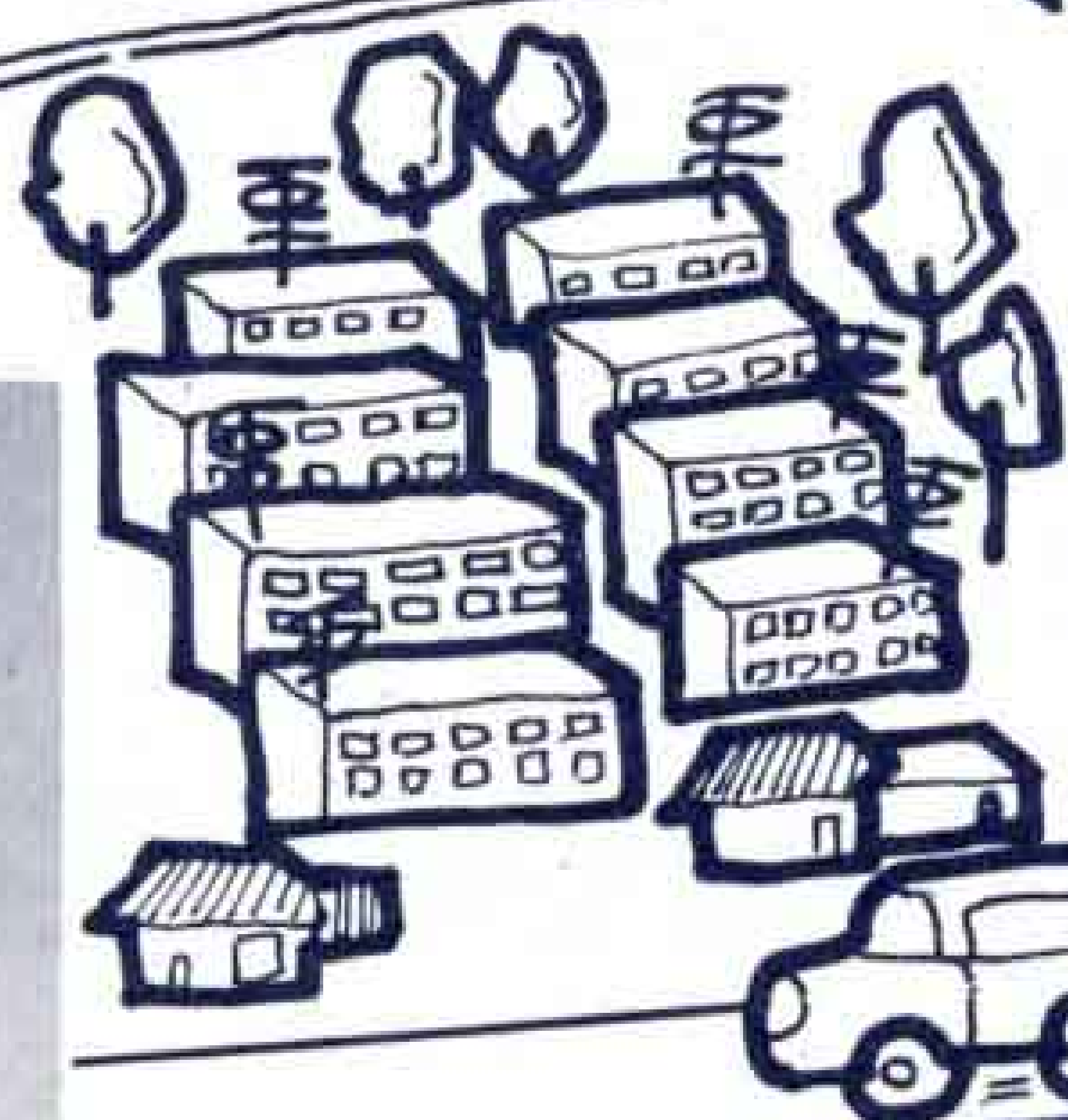
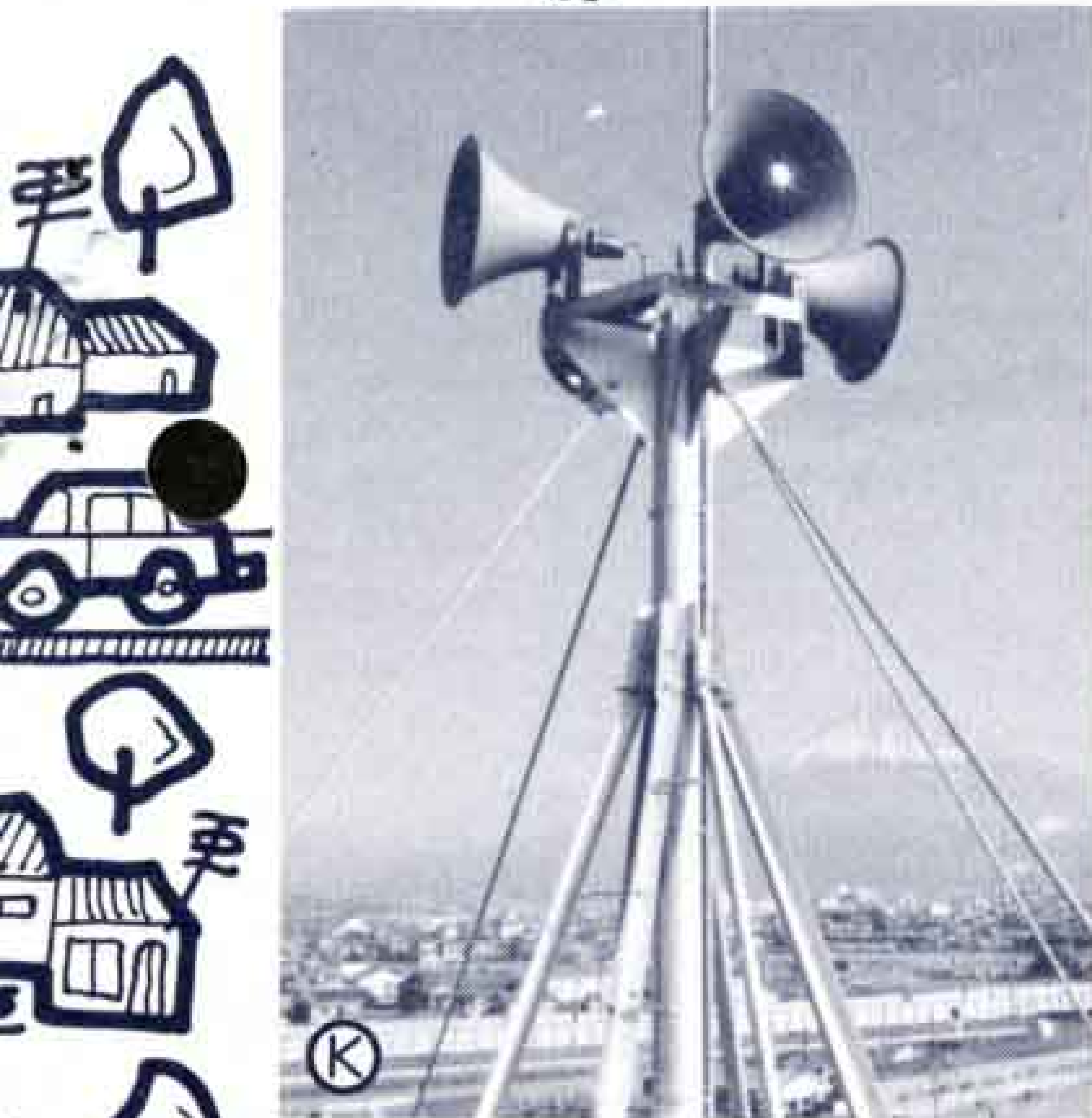
富士・由比バイパス



40キロの
速さで
2分7秒
かかるんだ

富士市の日本一

- A 国道1号線富士・由比バイパス新富士川大橋 (長さ1,528m)
- B 新幹線富士川鉄橋 (長さ1,373m)
- C 東駿河湾工業用水道水管橋 (長さ1,040m)
- D テトラポット(重さ50ト、高さ4.3m 約30万円)
- E 海岸防潮堤 (高さ17m)
- F トイレットペーパーとちり紙 (年間消費量の42億、年間生産量約20万ト)
- G 紙・パルプ・紙加工工場 (385工場)
- H 乳酸きん飲料用の紙容器 (全国消費量の約50億、年間生産量3億個)
- I 牛乳ビン紙キャップ (全国消費量の約35億、年間生産量26億枚)
- J 靴ひも(とじひも) (全国消費量の約90億、年間生産量11億足)
- K 市広報無線受信局 (196カ所)
- L 工業用水 (1日使用量 165万ト)



成人おめでとう

今年は2,631人が大人の仲間入りに

輝やかなしい20歳の新春を迎えられた人たちを、心からお祝いするために、今年も1月15日午前9時から吉原市民会館、午前10時30分から富士文化センターの2会場で成人式が開かれます。

ことし大人の仲間入りする成人は、昭和34年4月2日から昭和35年4月1日生まれの方々と、市内の該当者は2,631人、うち男1,336人、女1,295人です。

当日は、式場が2会場になるため、どちらの会場へ出席してもよいことになっていますが、富士文化センターへは鷹岡・岩松・富士北・富士南・田子浦・元吉原地区

の人たちが出席されるよう呼びかけています。

また、大学生などで、東京その他に住民登録をもっている人でも、富士市で成人式が受けられますので、直接会場へお出かけください。

式は、両会場とも開会に先立ち縁起のよい「神楽」が保存会のみなさんによって披露されます。

このあと、渡辺市長の式辞、記念品の贈呈、加藤市議会議長のお祝いのことば、山田選挙管理委員会委員長の「新有権者に望む、あいさつ」などが予定されています。

ふるさとのむかし話



大淵中学校の北側から大淵新田に通じる細い山道があります。むかしは、大淵本村や中野村から大淵新田へいく、たった一本の道でしたが、細い道の両側は、うす暗いほどの林になっていました。

ですから村の人たちは、ここを通るのがなんとなくいやでした。その林の中に、いつか一匹のずるがしこい大猿がすみついていました。猿のむれから仲間はずれにされて、一人ぼっちですんでいたのも、だんだん心がすさんだのか、悪いいたずらをするようになりました。この道は、すこし坂道になっていて、中ほどに大きなケヤキの木がありました。その枝が道の上においかぶさって道をなお暗くしていました。

大猿が火打ち石で火遊び

その大猿は、どこでおぼえたのか、火打ち石で火をおこすことを知っていました。あるとき、そのケヤキの木にのぼって、人が通るのを待っていました。しばらくすると、一人の女の人が荷物をしょって下を通ったので、大猿は、ツケ木に火をつけて、女の人の上から落しました。頭の上から火が降ってきたので、びっくりした女の方は、悲鳴をあげてにげていきました。

猿は、それが面白くて、たまらなかったもので、それか

ら毎日いたずらをくり返して、通行人をおどかしていました。

猿のいたずらが、だんだん評判になって、火を落して通る人をおどろかしたのは、大猿のしわざとわかりましたので、村人は大勢で猿を追い回して、とうとう生けどりにしてしまいました。

命乞いし、道の番を

人々が「殺してしまおう」というのを聞いた大猿は、両手でおがみながら「これからは、決していたずらしないから」といいました。「こんどやったら、殺してしまうぞ」というと、大猿は、涙を流してあやまりました。

殺すのも、ふびんだと思った村人は、そのまま放してやりました。

それから間もなく、この大猿は、毎日ケヤキの根もとの大きな石にすわって、道の番をするようになりましたので、中野村から大淵新田へいく人たちは、うす暗い道でしたが、安心して通るようになったといいます。

いつか、この坂道を人々は「猿番道」(さるばんどう)と呼ぶようになりました。



【猿が番をしたと伝えられる岩(右手前)】

昭和55年富士市消防出初式

1月13日(日)
8:30~

・式典会場 市役所南側道路
・消防演技 " 北側駐車場
・分列行進 吉原本町通り